

岐大通2014

2014 J.League Division2

F C 岐阜大好き通信 (岐大通)

3/9号

第2節 カターレ富山 戦

編集発行：『岐大通』製作委員会

今号の製作担当：

ささたく&吉田鑄造

3/9 16:00 @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

today's guest : カターレ富山 2013 J2 11勝11分20敗 勝ち点44:第18位

1975年創設の北信越リーグの第1回優勝チームであるYKK (YKKAP)と、1990年創部の新興勢力ながら一気に頭角を現した北陸電力(アローズ北陸)は、2008年から合併して『カターレ富山』になるまでは富山県のサッカーを引っ張る「ライバル」で、天皇杯の富山県予選は県代表制になった第76回(1996年)から合併前年の第87回(2007年)まで12年連続してこの2チームによる決勝戦だった。アローズは2000年に、YKKは翌年にJFL昇格を果たし、全国の舞台でも火花を散らした。『カターレ富山』は合併初年のJFLで3位となりJ2加盟。最高位は2009年のJ2・13位。(吉田鑄造)

2014年シーズン開幕戦を見事に勝利して、幸先の良いスタートを切ったFC岐阜。開幕戦での勝利は4年振り、3点以上得点したホーム戦、そして複数点差での勝利は昨年6/29北九州戦以来(ちなみに、その前は2010年11/28の栃木SC戦以来)の出来事だ。開幕から7試合未勝利・無得点で最下位に沈んでいた昨シーズンを考えれば、新加入選手の活躍で「今年のFC岐阜はやはり違う」と思わせてくれたと言えるが、一方で多くの課題も見えた試合だった。

(讃岐には申し訳ないが)昨年までJFLだったチームに試合序盤から攻め込まれ、3点獲った後にも守備のバランスを崩して失点を許すなど、ラモス監督が怒るのも無理はない。まだチーム始動から2ヶ月にも満たず、しかも監督が替わりスタメン7人が新加入ということで戦術が浸透していないと思われるチーム。大きな注目を浴びてプレッシャーのかかる開幕戦の対戦相手が讃岐だったのは、結果的には良かったと言えるだろう。勝ちきることが難しい試合で、しっかり勝ち点3を獲れたことは素直に評価したい。ただし、(下馬評で降格候補筆頭の)讃岐に勝って首位タイになった(それはそれで嬉しいのだが)からといって、これからも油断は全く出来ない。1試合毎に全力で戦って結果を出していくしかない。

さて、今節の対戦相手はカターレ富山。昨年は18位と(岐阜と同じ)ここ数年は下位の常連クラブだが、年間監督体制5年目を迎えて成熟したチームである。2013年シーズンの対戦では、11/21(シーズン最終戦)アウェイで見事な逆転勝ちを収めたものの、それは2010年3/7開幕戦での勝利以来の事だったし、長良川での4/17ホーム戦では終盤に2-2に追いつきながらもロスタイムに決勝点を決められるという屈辱的な敗戦を喫している。通算対戦成績も3勝3分5敗、カターレの前身、アローズ北陸とYKKAPとの対戦(2007年)を含めると3勝7分5敗と、あまり相性の良くない相手だ。堅実な補強でストライカー#10 菅口卓也に加え、#9 白崎凌兵と#33 中島翔哉という2人の2016リオ五輪のエース候補を擁した攻撃陣は要注意だ。また守護神として福岡から#21 水谷雄一を迎えて守備陣も安定感を増している。この富山を相手に、開幕戦で見えた課題をどこまで修正して岐阜が試合に臨めるかが、大きな勝敗の鍵になる。

また、かつてFC岐阜に3年間在籍(09~11年)していた#18 西川優大はベンチスタートの見込みだが古巣との対戦に燃えている(なお前回4/17には先制点を奪われた)だろうし、燃える思いは筑波大から同期入団した#4 田中秀人も同じはず。かつて「筑波カルテット」と呼ばれた2人のマッチアップが実現すれば、更に白熱した試合が見られることだろう。

また今節は(2011年までは「東海北陸」ダービー、2012年からは「Top of 北アルプス」ダービーとなる隣県クラブの一戦でもある。簡単な相手ではないが、ここでしっかりと勝って勝ち点を稼いでおきたいところだ。なにせ開幕からの連勝はJ昇格以来6シーズン達成できていないし、連勝は選手たちの自信にもなり、チームに勢いも出てくるだろう。

今節も続く「負けられない戦い」、僕らサポーターも油断することなく拍手と声援で選手たちを鼓舞して支え、そして今節も万歳四唱で喜びを分かち合おうじゃないか。(ささたく)

2014J2

■順位表■第1節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績(岐阜から視て)

1	岐阜	3p	+2	3	1	---	---
	松本	3p	+2	3	1		
	京都	3p	+2	3	1		
4	栃木	3p	+2	2	0		
	長崎	3p	+2	2	0		
6	水戸	3p	+1	2	1		
	熊本	3p	+1	2	1		
8	札幌	3p	+1	1	0		
	湘南	3p	+1	1	0		
10	横浜FC	1p	0	0	0		
	富山	1p	0	0	0		
	岡山	1p	0	0	0		
	愛媛	1p	0	0	0		
14	福岡	0p	-1	1	2		
	大分	0p	-1	1	2		
16	磐田	0p	-1	0	1		
	山形	0p	-1	0	1		
18	讃岐	0p	-2	1	3	HO	
	東京V	0p	-2	1	3		
	北九州	0p	-2	1	3		
21	群馬	0p	-2	0	2		
	千葉	0p	-2	0	2		

次回HomeGame

第4節 湘南ベルマーレ戦

3/22(土) 13:00

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場



本庄工業株式会社

<http://www.honjo-woodream.com/>

岡田歯科医院

岐阜市加納新本町1-23

tel:058-273-8998

ALADDIN

何も無い店だけど..

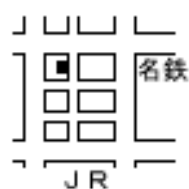
心の花が咲く..

何も無い店だけど..

心癒される..

忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)



「いらっやいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は

JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。

休:月曜(定休日が変わりました!)

投稿募集!!

gidaidohri@
hotmail.co.jp

【第1節】岐阜 3-1 讃岐

●3点も入った試合見るのいつぶりだろ(笑)。とかいう冗談は置いて、まずは11000人以上集客して、きっちり勝つという結果には大満足の試合でした。

やっぱりサッカーの華はゴールなので、おそらくたくさんいたであろう、初めてFC岐阜の試合見に来たよ!という人たちもたくさんゴールが見られて楽しかったんじゃないかな。試合前のスタジアム内外の雰囲気も、活気というかお祭り感、非日常感があってすごくワクワクして。この空気はきっとまた人を呼び寄せると思います。

オフの間仕込んできたものが結実し、この試合をイベントとして成功させられたことが、実は勝ち点3より大きな成果だったんじゃないかな、と思っています。

試合内容はディフェンス面とか最後受けに回ってしまったこととかあまりいいものではなかったと感じました。細かい内容は玄人諸氏に任せるとして(笑)ラモス監督の激おこぶぶん記者会見を見るに問題は問題としてきっちり把握されてるみたいで、その点については現状なんら心配はしてません。勝った上で課題があるってことはまだまだ強くなれるってこと。最高じゃない?

まだまだシーズンは始まったばかり。選手・監督を信じよう! (@kumakuncj)

●1万人を超える入場者数、そして3-1での勝利。これだけなら非常に喜ばしいところだが、立ち上がり15分くらいは非常にヒヤヒヤものであった。アレックス(三都主)、杉山の両SBの守備が軽く、特に右サイドはアンドレア、高木和正に攻め込まれる場面が多く、危険な場면을何度も作られていた。

その15分を過ぎた辺りから讃岐がややペースダウンした感もあってか、岐阜も落ち着いて対処ができていたと思う。ただ、試合全般を通してルーズボールを拾われるケースが多かったのは気になった。試合後、ラモス監督が怒りモードだったのは3点目を取った後目に見えてペースダウンした面があって、0点で終われるところを1点失ってしまったところであろう。

新加入組にベテラン勢が多い今年の陣容。春先の今はともかく、この先試合が進んで夏場を迎えた時に体力面で若干の不安があることは否めない。

それにしても2点目のFKを決めたナザリトには驚かされた。パワフルなプレーの数々で、これから対戦するチームのDFは、彼を止めるのに一苦労するであろう。あとは日本のレフェリーにうまく対応してカードを量産しないことを願うばかり。あとフロント。某関西のJ1チームとかに持って行かれないように、今から違約金を5億くらいに設定しておくように(笑)。(岐阜の誇り)

●今年も待ちに待った開幕戦を迎えることが出来ました。グリーンズに参加させて貰っている自分には「来場者目標は1万5千人、いや2万人だ!」だとか「前売りが1万超えた。ガンバ戦より売れてる!」等の威勢の良い声が聞こえてきて、ボラとしては運営は大丈夫か?と正直ドキドキでした。で、試合当日。心配された雨雲もどこへやら。観戦日和な開幕戦となりました。

試合は(監督にとっては激おこぶぶん丸(笑)な展開だったみたいですが)3対1で勝利!帰って行かれるお客さんの笑顔を沢山見る事が出来て、とても嬉しかったです。

こんな笑顔が去年より沢山見たいな~と思うと共に、未来に向けてずっとずっと見て行けたら良いな~と思ってました。(ヤックル)

●異様に周囲の期待が高まるシーズンオフを終え、いよいよ僕らの前にベールを脱ぐ「新生・FC岐阜」。ただ、(2008年の僕らがそうだったように)讃岐は怖いもの知らずだろうし、先制パンチを決めようと最初からギア全開で来るだろうな…

と違ってたら、案の定で、それをまともに受けてしまったので苦しい展開に。この攻勢をしのいで、前半32分にCKから#24難波の先制点でペースを取り戻すと、後半になって#9ナザリトのFK弾、#6高地のダメ押し…で勝ったのは良いのだけれども。

まあ監督も替わったしチーム始動も例年より(約半月?)遅れたし、スタメンは7人が新加入だし開幕戦だし、まだまだチーム戦術や連携が選手に浸透していないんだろうなあとは思うんだけど、ちょっとバタバタし過ぎていたな、と思う。特に守備では讃岐のショートカウンターにハラハラさせられるシーンが何度もあった。パスミスや当たり負けも多かったし、#20アンドレアには随分と切り裂かれてたよね…(溜息)。#9我那覇には6年振り&讃岐としては初のJリーグ得点を献上しちゃうし。これで怪我して欠場だった#33木島や#23高橋がいたら、どうなったのか…(溜息)。そーいや、セレッソ大阪と3/1に対戦した広島DF千葉が「(柿谷とフォルランの連携が向上していない)開幕戦で良かった」と言ってたっけ。開幕戦で讃岐が相手とは何かイヤだなあと思ってたんだけど、振り返ってみると、開幕戦で当たっておいて良かったと思う。実際、シュート数は岐阜の11本に対して讃岐は13本(!)、CKも5本に対して13本(!!)。もし一つ間違えば、かなり危ない試合だった。

…で試合中、バックスタンドからでも「あー、ラモス監督やっぱり怒ってるなー」ってハッキリ見えてた(笑)けど、試合後もやっぱり相当怒ってたみたいですね。でも逆に言えば、そうやって怒ってくれて僕にはホッとした。スコアだけ見ると快勝に見えるけど、そうじゃないって事を選手に(そして周囲にも)厳しく伝える効果は絶大。今節は、問題点を修正して試合に臨んでくれると信じてます、ハイ。

それにしても…(と試合を見た人なら誰もが思うよね)、#9ナザリトときたら。ヤバイ。まだ1試合だけど「なんか、とんでもない選手が岐阜に来た…(呆然)」って思わずにはいられなかった。デカいし強いし跳ぶし走るし、なにあのフィジカルモンスター? (笑)。ヘディングも足元の技術もあるし、なにあの弾丸FK? (笑)攻撃でもボールが収まるから効果的なんだけど、低めのCKを全部跳ね返す様は“黒き壁”。さすがは年代別コロンビア代表といったところか…。かつてラモス監督が東京Vを指揮してJ1昇格を決めた2008年も「戦術はフッキ」って揶揄されたけど、それと同等の選手かもしれない。この活躍が今後も続くようなら、夏の移籍期間には一つ上のカテゴリーにいるような気がしているのは僕だけだろうか(苦笑)。

新人DFで開幕スタメンとなった#33阿部も、予想以上の出来だった。#3深谷がキャンプ中に大怪我をして、#35木谷の相方CBは誰なのか興味があったんだけど、これは#5関田や#20新井もウカウカしてられない。若いCB同士で切磋琢磨して欲しい。

#24難波も良い動きをしていたし、今季クラブ初得点の功績を讃えたい。苦労人だと聞いていたが、「あの」マイク(トラメガ)パフォーマンスが出来るのは、素晴らしい(笑)。がつりサポの心を掴んだんじゃないかと、#24っていうのは、岐阜では「愛され系キャラ」の番号なのかな?(笑)

…と書いているとキリが無いのだけれど(苦笑)、メディアについても触れておかねば。僕は試合結果等は各種メディアでチェックするようにしてるんだけど、今回は多すぎて(把握できなくて)全部は無理でした…「やべっちF.C.」でも放映されたのには目を疑いましたが(笑)。こういった露出がクラブ史上最も多いのだから、クラブは営業を(人手が足りないとは聞いているけれど)もっと頑張ってもらいたいと思う。ともあれ、開幕戦は個の力で打開した部分が多かったように思う。逆に言えば、チームとしての伸びしろはまだ多い。

このままだと、いわゆる「殴り合い」の試合が多くなってしまいそうな心配もあるけど、チームの完成度を高めて、これからもっとワクワクさせてほしい。

(ささたく)

●「ジョウダンジャンナイヨ！」と言いたくなるくらいの日射し。雨具やら着替えは用意してきたけど、日焼け止めが必要になるとは聞いてなかった(苦笑) さすがは我らの指揮官。雨雲をビビらすほどの勢いだったということか。もっとも、ビビらされたのは天気だけじゃなくて試合後の選手達も……。試合について一言でいえば「個の力で勝った。」まさか、ウチの試合でこんなセリフが言えるようになるとは想像だにしていなかった。新戦力にして、すでにエースとなってしまった感のあるナザリトのFKを始め先取点の時の三都主のCK、3点目のスティップの右足アウトサイドの浮き球からナザリトのスルー、そして高地のシュート。イイものを見せてもらった。特にナザリトのFK。岐阜の選手のFKの得点は、昨季アウェイ熊本戦での森安以来だと思うけど、長良川での、となるといつ以来?もしかして、Jリーグ参入初年度、平成8年の山形戦・淳至以来、だったりする?それはともかく、キャノン砲と表現されるような強烈シュートの持ち主と聞いていたが、鮮やかな技ありのゴールだった。え?剛柔両方いけるの?いや~、ますます楽しみが増えた。毎試合9番から目が離せない。

しかし。試合内容を振り返ってみると、チームのコンセプトを忠実にこなし、仲間のための献身的なプレー、ボールを大切に繋ぐ意識を体現していたのは讃岐の方だったと思う。とにかく、中盤でのセカンド・ボール、こぼれ球が拾えない。監督の就任が公式に発表されてから日がなかったせいなのか、あるいは、経験したことのない報道陣や見学者の数。そのプレッシャーに本番で身体が硬直してしまったのか。こんなハズじゃないだろう?そういう思いは監督の言葉を待つまでもなく、選手自身が感じているハズ。いや、感じていてくれなくては困る。こんな内容でこのままいけるほどJ2は甘いリーグではない。キックオフ直後から先制するまで、3点目から終了まで、優勢を保ち、果敢に攻め、組織で戦っていたのは讃岐の方だった。流れの中からの得点は3点目だけ。まあ、先取点のCKは流れの中からもぎとったモノだけど。前線の二人、特に難波のフォアチェックや両CBの広範囲のカバーが功を奏して何とかしのぎ切った。そんな風に見受けられた。そうそう、ルーキーながらいきなりのスタメン、フル出場の阿部。レギュラー候補、経験者に怪我人が続出した中でよく頑張ってくれた。感動した。ちょっと考えられないハンドでの警告はご愛嬌か(笑)十二分に監督、観客にアピールできたと思う。深谷の早期復帰は難しい状況の中、彼に刺激を受けてCBのポジション争いが激化するの歓迎だ。新井や関田もうかうかしてはいられなくなったワケだ。さらに、終盤には清本と同時交替で、セカンドから昇格した智大もわずかな時間ながら出場した。働きながら国体優勝の一員となった彼にとって感激の瞬間だったと思う。が、これがゴールではない。それは、彼自身がよくわかっているハズ。今日の内容からして、ナザリト、難波の2トップ、そこにスティップが加わる前線でポジションを奪うのは厳しいだろうが持ち味を生かして早くゴールを決めてほしい。キミのチャントを歌う時を待ってるよ。

繰り返すけど、内容にはぜんっぜん満足はできない。主力メンバーにケガがあってベストの布陣が組めなかったことも理由かもしれない。しかし、それは讃岐も同じこと。高橋や木島、西野はベンチにも入ってなかった。それでも、開幕に100%というの難しいかもしれない。ここが底だと信じている。いろいろ書いてきたけど、結果は3-1。開幕戦の勝利は4年ぶりか。(その時の対戦相手は次節に当たる富山だったな)

とにかく、勝ってくれて本当によかった。これだけの観客が入り、絶好の観戦日和。しかし、昨季のG大阪戦とは天候も違うし、何よりアノ時は大阪、というか遠藤、今野の代表コンビを見に来た人がほとんどだった。今回は岐阜を観に来てくれた人が一万を超えていた中での勝利。見事な3ゴール。そして、ゴールが決まった瞬間のあの歓声。万人の声っていうのはスゴイもんだね。ああいうのを体験するとハマってしまうんじゃないかな?一人でも多くリピーターになってくれますように。それにしても、入場者数はG大阪戦を超えたと確信してたんだがなあ。あれで11,000人なら15,000人入ったらどうなるんだろう?

そして、これだけの人が集まってくれたおかげで、屋台村が大盛況だったのもうれしかった。芝生前広場に移って大正解。開場前から大賑わいで、あれが昨季までのサンサンデッキだったら収集がつかなくなっていたと思う。ずっと屋台村を堪能してきたボクにとって並ぶ時間が増えるのはちょっと残り残念だけど、わざわざ出店して下さってる方々のことを考えると、やはり毎試合これぐらいの集客ができないとね。閑散としているのはサビシイもんね。次節以降は的を絞って並ぶことにしよう。

まだまだ始まったばかりだけど順位表では1位になってる。タイだけど。夢みたいだ。もちろん、このままいくとは思っちゃいない。もっと底上げが必要だ。それでも、試合後の指揮官の談話を見聞きして、「彼はわかっているな。」と確信した。それなら、少しづつかもしれないけれど、これからよくなっていくだろう。新生FC岐阜に期待したい。

締めくくりに新チャントについて。「さぁ、行こうぜ! We are Gifu!! 勝利つかもう! 共に!!」あれはよかった。タイトルは『ケルン』っていうらしいけど、歌詞もシンプルで歌いやすかった。早くみんなに覚えてもらって、たくさんの人に歌ってもらえるようになってイイな。(ぐん)

●さすがに「勝っただけ」とまで断罪する気にはなれないが、『快勝』という表現だけは使えない、使いたくない試合。開始早々の左サイドの守備の軽さは、まさに「眩暈」を呼び起こすもの。アンドレアが盛んに岐阜の右サイドを突っついてくるのでアラタの守勢が目立ってた(そこを破られてからのクロスで失点した)けど、もしこの日の讃岐の右に木島がいて両サイドをツツツンやられてたら、勝っていたかどうかとも疑わしい。讃岐は、さすがに「J開幕」に合わせてモチベーションも高く、昨年からのメンバーをそれほど大胆にいじってないせいか、チーム戦術も整っていて、いい仕上がりがった。

でも、讃岐にはナザリトがいなくて岐阜にはナザリトがいた。まだ少々ため残り(?)な感もあるけど、フィジカルの強さ、ヘッドの高さ、そして2点めで示してくれた『ナザキャノン』の威力。自分のところでボールを失うと必ず戻って奪った相手をチェイスするし、相手のCKの際もゴールのニアポスト付近の制空権はすべて彼のモノだった。いやいや、とんでもない。ラモス監督が「半年後に(岐阜に)いるかいらないか」と心配するのも、さもありません。難波に高地といった新加入選手は前評判通りの活躍。だけど、この試合で特筆したいのはCBを務め上げた阿部。大卒ルーキーがいきなりのスタメン。頻繁に破られる左サイドのケアも含めて、大変な思いをしたことだろう。試合終了後には、まさに「いっばいっばい」といった感じだったらしい。これで一気に経験値アップ、今後も安定したプレーを觀せてほしい。

連携はチームの時間が経てば向上するけれど、個々のスキルはそうはいかない。試合後の監督は激怒モードだったけれど、どこをどう直して来るのか。次節も愉しみになってきた。最後に、手集計ですが、FC岐阜の創設からの公式戦通算ゴール数が、この讃岐戦の3ゴールで699になったことをご報告。あと1つで節目の700ゴールです。(吉田铸造)

